

2022年度

研究不正防止計画

公立大学法人北九州市立大学

不正等の発生要因分析、及び対応する今年度の主な実施事項

1 機関内の責任体系の明確化

1-1	不正等の発生要因	各責任者へ役割の周知が不足している。
	想定される問題	責任者の管理不足により、不正が見過される。
	今年度の実施事項	コンプライアンス責任者・研究倫理教育責任者に対する研修を行い、役割の周知と管理の徹底を図る。

2 公的研究費の適正な運営・管理

2-1	不正等の発生要因	不正問題に対する意識が希薄である。公的研究費の執行ルールに関する認識が不十分である。
	想定される問題	不正という認識なしに、不正行為につながるリスクがある。
	今年度の実施事項	公的研究費に関わる教職員に対して研修を行う。また、執行ルールのガイドブックを学内ポータルサイトに掲載し、周知及び注意喚起を徹底する。
2-2	不正等の発生要因	研究費の執行に計画性がない。
	想定される問題	年度末の駆け込み執行や、残余研究費での不要な物品購入が起きる。
	今年度の実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等において、研究費の計画的な執行を促す。 ・外部研究費について、その繰越制度等を周知する。 ・コンプライアンス推進責任者が、年度途中で執行状況を確認し、執行率の低い教員にヒアリングを行う。必要に応じて執行計画の見直しを指示する。
2-3	不正等の発生要因	立替払い後の請求が遅延する。
	想定される問題	立替払いの精算忘れや二重払いが起きる。
	今年度の実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ・立替払いの精算に期限を設けて、適正な処理や速やかな請求を促す。 ・書籍や電子書籍等について、検収を徹底する。
2-4	不正等の発生要因	公的研究費等で購入した物品について、管理が不十分である。
	想定される問題	換金性の高い物品の売却、目的外使用が起きる。
	今年度の実施事項	<p>換金性の高い物品については、管理シール・セキュリティシールを現物に貼付し、所在が分かるよう記録する。必要に応じて、現物確認等調査を行う。</p> <p style="margin-left: 20px;">〔 ※換金性の高い物品：パソコン、タブレット型コンピュータ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テレビ、録画機器 〕</p>

3 公正な研究活動の推進

3-1	不正等の発生要因	どのような行為が不正行為にあたるかの知識が不十分である。
	想定される問題	不正という認識なしに、不正行為を行うリスクがある。
	今年度の実施事項	研究活動に携わる者には、研究倫理教育・研修及び啓発を行う。

2022年度の実施スケジュール

実施時期	実施事項
第 1 四半期	<ul style="list-style-type: none"> ○新規採用教員に対する研究不正防止研修の実施(新任教員研修) ○新規採用教員の研究倫理研修受講 ○新規採用教員からの誓約書提出 ○コンプライアンス推進責任者・研究倫理教育責任者に対する研修の実施 ○啓発活動(1 回目)
第 2 四半期	<ul style="list-style-type: none"> ○研究不正防止研修(全教員)の実施 ○公的資金執行専門研修(事務局職員)の実施 ○2022年度科研費公募要領等説明会(不正防止含む)の実施 ○啓発活動(2 回目)
第 3 四半期	<ul style="list-style-type: none"> ○10月採用教員からの誓約書提出及び研究倫理研修受講 ○公的研究費執行状況調査の実施 (年度当初に執行を開始した繰越できない研究課題) ○公的研究費内部監査の実施 ○啓発活動(3 回目)
第 4 四半期	<ul style="list-style-type: none"> ○公的研究費執行状況調査の実施 (年度途中で執行を開始した繰越できない研究課題) ○次年度研究不正防止計画策定 ○啓発活動(4 回目)

※学生(学部生、院生)に対しては、研究倫理教育を授業の中で実施し、その旨を当該シラバスに明記。